

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 1日

事業所名 しあわせ駅読谷

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	1	部屋がもうひとつあればより良いが、簡単に増設等できないので、一つの部屋を仕切りを設けて分割した部屋として扱う等、工夫して支援を行なっている。	
	2	職員の配置数は適切である	8	1		適切である。基準人員配置を満たし、利用人数に応じて配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9			適切である。特性に応じて部屋ごとに用途を分ける工夫をし、バリアフリー化をしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	4	1	気になる事や対応方法など、スタッフ同士で相談し、次の対応に生かすようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3	3	いただいた評価やご意見をもとに業務改善に繋げている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1		ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	6		外部評価はまだ実施できない。今後、導入を検討中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	2	1		コロナ禍でなかなか難しいが、一部職員にとどまっているため、全職員で行えるような取り組みをしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1			子どもとのコミュニケーションからも課題などを拾えるようにしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	1	アセスメントシートの活用を今後強化していくために、シートの見直しを行っている段階である。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1		担当を決める等の工夫をして立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1		子ども達の好きな遊び等で固定化される事もあるが、集団活動には様々な活動を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	2		休日には、平日には取り組めない活動を入れる等工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	2		個別レッスンや全体レッスン、集団活動等、その子に合わせた計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1		申し送りで担当職員が行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	5		毎日ではないが必要な時は行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1		正確な記録を心掛け、支援に繋げている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	2		モニタリングを通して判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	6		行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1		参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2		行っている。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	5		現在は医療ケアが必要な子どもはいませんが、必要な子どもが利用する際は体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	1	6		児童発達支援の児童は利用していないが、今後利用になる際には情報共有と相互理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	7	1		今年対象の児童がいるため、保護者と話し合いつつ、移行先の事業所に情報提供行っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	3	外部との直接の連携は行っていないが、事業所内での研修を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	8		コロナでできていないが、今後交流する機会を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1	2		参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	2		送迎時や、電話メール等で行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		3	6		今後、取り入れていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			契約時、また必要時丁寧な説明を心がけて実施している。	今後、職員全員が説明ができるよう知識を高めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	1	行えるよう心掛けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	6		コロナでできていないが、今後交流する機会を増やしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	3		じんそくかつ適切な対応をするよう心がけて行なっている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		1	毎月のおたよりやLINEを活用して行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	9			重要書類は、鍵付きの棚におさめて管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	2		資料をもとに読み合わせなどの勉強会を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	6		衛生管理などの対策をしっかりと行っただけで今後取り組んでいきたいと思う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	5			職員には周知しているが、保護者の方々にも周知徹底していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	7	1	計画を立て行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	4	全体での研修は行えなかった為、会議の資料を参照し全員に情報共有を行った。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	4	2		対象児童はいないが、マニュアル等のファイルは作成し、職員への周知も実施している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	1	対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	5			事例集は作成されているが、全職員への共有が出来ていない為、勉強会等を今後行なっていきたい。